

21日 水曜

伝道者の書



8:1 知恵のある者とされるにふさわしいのはだれか。物事の解釈を知っているのはだれか。人の知恵は、その人の顔を輝かせ、その顔の固さを和らげる。

8:2 私は言う。王の命令を守れ。神への誓約があるから。

8:3 王の前から慌てて出て行くな。悪事に荷担するな。王は自分の望むままするから。

8:4 王のことばには権威がある。だれが、王に「何をするのか」と言えるだろうか。

8:5 命令を守る者はわざわざ知らない。知恵ある者の心は時とさばきを知っている。

8:6 すべての営みには時とさばきがある。人に降りかかるわざわいは多い。

8:7 何が起るかを知っている者はいない。いつ起るかを、だれも告げることはいない。

8:8 風を支配し、風をとどめておくことのできる者はいない。死の日を支配することはできず、この戦いから免れる者はいない。そして、悪は悪の所有者を救い得ない。

伝道者は神はないという人に対して、この世の秩序や法則性に目を留めさせて、神の存在に気づくように導こうとします。

この世の王とは時の権力者で、良くも悪くもその社会の秩序をもたらします。ですから王の命令を守ることにはや疑われないことは、わざわざ守られることでもあります。ですからこの世はただ偶然で無意味な現象の羅列なのではなく、秩序と法則があるということです。

またこれは永遠の王であられる神の存在を類推する手がかりともなります。未信者であっても王や父親など神から権威を授かった者の存在を通して、神へのイメージができるのです。または悪しき支配者

がいることによって、正しい永遠の支配者を求めることができるようになるのです。

私たちは社会の秩序を尊重しつつ、その秩序をもたらしておられる神様のみこころを行いましょ。善き市民、善き国民、善き人間であることを通して、神様を証しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

